



第56号
令和6年11月発行



報告

第42回NPO博多の風フォーラム

「子どもたちを守るため、
今私たちにできること」

報告 第21回
追い山笠コース探訪

第23回 楽文コンテスト

◎主催 ---- 

◎協力 ---- 博多祇園山笠振興会、(株)毎日新聞社、RKB毎日放送(株)、日本電気(株)

◎協賛 ---- 九州電力(株)、西部ガスホールディングス(株)、(株)西日本シティ銀行、西日本鉄道(株)、(一財)福岡県交通安全協会

◎後援 ---- 福岡市、福岡市教育委員会、(一社)九州経済連合会、(株)岩田屋三越、九州旅客鉄道(株)
(株)九電工、NTT西日本九州支店、(株)福岡銀行 [順不同]

近年の活動

※設立からの詳細はホームページをご参照ください
<http://hakatanokaze.jp>

令和2年(2020)
新型コロナウイルス感染拡大防止の為、各行事の開催見送り

令和3年(2021)
6月 第20回 楽文コンテスト 開催

令和4年(2022)
6月 第19回 追い山笠コース探訪 開催
第21回 楽文コンテスト 開催
12月 第21回 楽文コンテスト表彰式 開催

令和5年(2023)
5月 第41回 NPO博多の風フォーラム 開催
講師:永田 隆憲(一般財団法人省エネルギーセンター九州支部事務局長)
6月 第20回 追い山笠コース探訪 開催
第22回 楽文コンテスト 開催

令和6年(2024)
5月 第42回 NPO博多の風フォーラム 開催
講師:戸谷 弘一(福岡県交通安全協会専務理事)
6月 第21回 追い山笠コース探訪 開催
第23回 楽文コンテスト 開催

NPO博多の風の歩み

- 設立
平成10年 9月
任意団体『博多の風』設立 代表:大庭宗一
- NPO登記
平成12年 6月
『NPO博多の風』として登記 理事長:大庭宗一

NPO博多の風事業概要

- 啓発事業
・博多の風フォーラム開催
・広報誌・HP発行
・毎日新聞世論フォーラム公聴
・作文コンクール(楽文コンテスト)開催
- 地域環境向上事業
・博多の町親交
(清掃活動クリーン作戦・冷泉小学校跡地提言・山笠文化継承)
- 活性化事業
・書籍出版
・博多祇園山笠の振興
・追い山笠コース探訪開催
- 協力事業
・各市民団体との情報交換及び支援

NPO特定非営利活動法人



〒812-0027
福岡市博多区下川端町8-16 -302
FAX 092-263-7188

E-Mail info@hakatanokaze.jp
URL <http://hakatanokaze.jp>

題字:新井光守



「子どもたちを守るため、

今私たちにできること」

令和6年5月11日、第42回NPO博多の風フォーラムが福岡市立博多小学校「表現の舞台」にて開催されました。今回は一般財団法人福岡県交通安全協会専務理事の戸谷弘一氏に登壇いただき、「子どもたちを守るため、今私たちにできること」と題して、警察官時代の防犯に関する話や交通安全協会における現在の取り組みについて話をいただきました。

「子どもたちを守るため、今私たちにできること」というテーマで、交通安全と交通安全協会のお話をさせていただきます。

■犯罪を防ぐ取り組み

私は元々警察官です。主に防犯を、生活安全総務課長など、いかにすれば犯罪を防げるかという仕事をしてきました。今の仕事の交通事故を防ぐことと、犯罪を防ぐことは、大体やり方が一緒です。

初めに私の警察官時代について、お話しさせていただきます。最終的には博多警察署長ということで、この博多の町に非常に深い繋がりを持つことができ、今の仕事も含めて、恵まれた仕事をさせていただいたと思っています。

警察庁に所属していた平成10年頃、ちょうど24時間営業のコンビニエンスストアが増えた時代に、毎日によ

の分配について話します。

私たちが色々な情報を見て、それを判断するエネルギーのことを、大上教授は「心のガソリン」と表現されますが、それには限りがあります。沢山使ってしまうと誤動作につながってしまいます。歩きスマホがなぜ危険なのかという点、スマートフォンの操作に自分の処理資源の大部分を使うので、実際に車が横から来たり、何か障害物にぶつかったりした際に、必要な情報処理資源の心のガソリンを割り当てられなくなり、車の運転は非常に難しい操作を伴いますので、運転時に携帯電話を使ったり、通話した



まとめですが、運転中のスマホ操作や悩み事は、心のガソリンを奪います。複雑した道路では視野が狭くなり、悩み事や考え事がある時は、いつも以上に運転に

行と我々警察庁が話をし、最終的に硬貨を変えようという話になりました。五百円玉をどのように変更したら良いか大蔵省から意見を聞かれました。当時ユーロの硬貨が二種類の金属を使った偽造されにくい仕様でしたので、このようなバイメタルの硬貨にしてくださいと、私は大蔵省に伝えました。しかし、硬貨を製造する機械を作り替えることが難しく、バイメタルへの変更には至りませんでした。それでも平成12年にできた新硬貨は、側面の斜めの溝や潜像など、日本独自の偽造防止技術を盛り込んだ仕様になりました。最終的にそれで「良し」としたのは警察庁に出向していた私です。

市交通安全運動キャンペーンや、青パトによる巡回活動にも取り組んでいます。ただ、このような活動は、皆様からいただく会費が一番の収入源となっており、非常に厳しいのが現状です。交通安全協会の会員の新たな特典「更新メールサービス」を紹介いたします。更新忘れや更新ハガキ紛失の対策として、更新時期をメールでお知らせします。こういった特典も含めて、交通安全協会の存在を是非皆様にも知っていただき、資金面でもご協力をいただきたいと思っています。年間四百円です。子供たちを守るために今私たちにできること、皆さんにできることは、今日お話ししたことを踏まえて、自分の行動や性格、運転特性などを日頃から注意して事故を防いでいただければと思います。子供たちを事故から守り、子供たちの笑顔を守れたらと思います。ありがとうございます。以上

～NPO博多の風ホームページ～

NPO博多の風は、博多の町の伝統を重んじながら、新しい風を吹かせ、博多の町と人の未来に貢献できる市民活動を深く広く継続的に推進します。ホームページには、設立趣意書やこれまでの取り組みに加えて、「フォーラム」「追い山コース探訪」「出版」「楽文」など、最新活動やイベントについて掲載しています。



ンビニ強盗が多発して、コンビニの防犯対策が必要になりました。強盗事件の犯人を捕まえるは当然ですが、警察庁の我々は、コンビニ強盗を防止することを主体に仕事をしました。当時はコンビニエンス協会会長さんや日本のコンビニエンスストアの元締めの方々と話をしながら、防犯の基準を作らせていただきました。この基準が今も生きています。今、コンビニ強盗はめっきり減りました。当時のコンビニ業界の方々が防犯について真剣に考えていただいたおかげだと思います。次に携わった印象的な仕事は、五百円硬貨についてです。以前、自動販売機でお釣りをもらうと、穴の空いた偽造五百円硬貨が戻ってきた時代がありました。自動販売機メーカーの方々と対策を取ったのですが、当時の大蔵省や日本銀行と我々警察庁が話をし、最終的に硬貨を変えようという話になりました。五百円玉をどのように変更したら良いか大蔵省から意見を聞かれました。当時ユーロの硬貨が二種類の金属を使った偽造されにくい仕様でしたので、このようなバイメタルの硬貨にしてくださいと、私は大蔵省に伝えました。しかし、硬貨を製造する機械を作り替えることが難しく、バイメタルへの変更には至りませんでした。それでも平成12年にできた新硬貨は、側面の斜めの溝や潜像など、日本独自の偽造防止技術を盛り込んだ仕様になりました。最終的にそれで「良し」としたのは警察庁に出向していた私です。

出向から戻り、管理官時代には警察署の機能強化に取り組みました。これまでの警察の仕組みを前提にするのではなく、様々な方からご意見を

交通死亡事故の原因の多くは、人的要因によるものです。外部の情報を見る・認知する、という入力段階。そこに見聞違いというエラーが発生します。そして人間は誤った情報で判断しようとしてしまいます。そこに勘違いや判断エラーが発生します。このエラーを基に動作を行います。車の運転でしたらブレーキやハンドルの動作実行で、間違いや操作エラーがあります。このエラーがなければ、正しく車の運転する・歩く・自転車に乗るといったことができず、人間というものは、どうしてもエラーがあるのです、事故が起きると言われています。

私たちの心のガソリン 次に、私たちの頭の中の、情報処理資源の配分と、注意



戸谷 弘一 (とたに ひろかず) 一般財団法人 福岡県交通安全協会 専務理事 昭和53年4月 福岡県警察官に採用。主に、生活安全(防犯)部門で勤務し、平成10～13年に警察庁生活安全企画課に出向。博多警察署生活安全管理官、警務課管理官、厚生課長、柳川警察署長、九州管区警察局長警務課長、博多警察署長などを歴任。令和元年から現職。博多祇園山笠では、土居流下土居町に所属。

報告

第21回追い山笠コース探訪

令和6年6月2日、第21回「追い山笠コース探訪」を開催しました。今年には福岡市内外から181人（子供26人含む）の方にご参加いただき、約5キロの追い山笠コースを長法被に身を包んだ博多の風の語り部と一緒に練り歩きました。

追い山笠コース探訪は、実際に博多祇園山笠に参加する博多のおいしゃんと一緒に、榊田神社から須崎問屋の廻り止めまで約5キロの追い山笠コースをめぐる人気イベントです。

当日は9時に冷泉公園に集合。理事長と副理事長が挨拶。



世話人から注意事項連絡を済ませた後、11班に分かれた参加者と、長法被に身を包んだ博多の風の語り部が次々に歩き出していきました。冷泉公園を出発し、榊田神社の山留めへ。「5秒前」のアナウンスの後、太鼓の音と共に榊田神社の清道に向かつて山笠が動き出す場所です。榊田神社の境内に立つ清道旗や榊田入りの様子など、山笠の鼻き手ならではの裏話も交えて、追い山笠コースの順路を約2時間かけて歩きます。東長寺や博多べいなど、博多部に残る神社仏閣や歴史背景にも触れながら、少しずつ変化する博多の町を歩くと、色々な発見があります。今年はお子さまにも沢山参加いただきました。まだ参加されたことが無い方も、毎年参加くださる方も、また来年是非参加いただければ嬉しく思います。ご参加をお待ちしております。



人気の書籍と山笠の扇子を販売



博多部の神社仏閣について説明（東長寺）



須崎問屋街の廻り止め



博多部の歴史を説明（博多べい）



榊田神社の山留め

発表！ 第23回楽文コンテスト 入賞者

博多祇園山笠振興会賞

- 「のれるようになったじてんしゃ」 草ヶ江小学校1年 長廣 律希
「大好きな伝記」 東光小学校3年 佐藤 那帆
「大好きな山笠」 博多小学校6年 大庭 宗太
「いろんな家」 野間中学校2年 ハッテツツウ夏蓮
「大好きな絵」 高取中学校3年 加藤 優衣

毎日新聞社賞

- 「きみがだいすきなこと」 宮崎小学校1年 大浦 穂果
「私がお好きなお店」 博多小学校4年 遠藤 陽咲
「念願の放送部」 原北中学校1年 白水 紗希
「お父さんへ」 野間中学校2年 末永 遥音
「竜馬のような生き方」 志賀中学校3年 町田 優莉

RKB毎日放送賞

- 「生まれてきてくれてありがとう」 東住吉小学校2年 濱田 真央
「ぼくのいだいひいおばあちゃん」 板付小学校4年 若林 陽祐
「ぼくが好きな事」 草ヶ江小学校5年 寺師 優輝
「自分が好きなこと」 野間中学校2年 大東 亜聡
「苦手から好きに変わった英語」 香椎第三中学校3年 田代 衣月

NEC賞

- 「大すきなかぞく」 東住吉小学校2年 伊藤 健
「今からスタート」 草ヶ江小学校3年 井手 愛梨
「大切な家族」 花畑中学校1年 吉田 寧々
「私がお好きな事」 老司中学校2年 新内 美羽
「糧」 志賀中学校3年 倉成 紗良

NPO博多の風賞

- 「大すきなこと見つけたよ」 草ヶ江小学校2年 前園 薫
「は虫類大すき」 東光小学校3年 光野 朝陽
「大切な友達への手紙」 板付小学校6年 若林 陽泰
「勉強」 花畑中学校2年 松川 紘都
「かわいいあの子」 柏原中学校2年 秋山ゆりあ

博多祇園山笠振興会賞

のれるようになったじてんしゃ

●草ヶ江小学校1年

長廣 律希

ぼくは、じてんしゃにのることがすきです。どうしてかというと、ちいさいのりものなのに、ぼくがはしるよりもずっとはやくはしれるからです。

ぼくのたんじょうびに、あおいじてんしゃをかってもらいました。でもまっすぐはしることができないし、すぐにのれなくてともしよつくで

たのしくのれるようになるまでに、おとうさんやおかあさんと、じてんしゃにのれんしゅうをしました。ほんどるをもってもらったり、いすをおさえておいてもらったり、おとうさんやおかあさんがうしろからはしておいかけてきてくれました。

じょうずにのれたときは、「りつきーのれたね」とよろこんでくれました。いまは、じゅんちようにのれるようになったので、ちかくのおおほりこうえんをじてんしゃでいっしゅうできるようになって、さいこうのきもちです。

大好きな伝記

●東光小学校3年

佐藤 那帆

わたしは、伝記を読むのが大好きです。とくに「アンネ・フランク」が一番好きです。アンネは、小さい時にドイツのフランクフルトに生まれ、ナチス党のえいきようでオランダへ行きました。

好きな所は、せんそうの中で明るくかくれ家で生活している所が好きです。アンネは、「死んでも生きつづけること」をのぞんでいたそうです。わたしは、そんなすばらしい言葉をのぞんでいたアンネが大

好きです。

ほかに、「ジャンヌ・ダルク」というフランスをすくったせきの少女のお話です。ジャンヌは子どものころすんでいた村がしゅうげきされた時、神様の声を聞きイギリスぐんをたおし、次つぎにぐんをたおすジャンヌがかっこいいと思いました。でも、イギリスぐんにつかまり火けいにより19歳で亡くなったのでわたしは、かわいそうだと思います。

このように、色いろな人の人生を読んで知るときようみがふえたり、自分の夢になるかもしれないし、べん強にもなるから大好きです。でも、くるしんでいる人に元気をあたえる人もいるけれど、その人をいじめてはいけないというのが分かったりする本もあります。だから色いろな人が人の気持ちがわかる、いいみ来にしようとしている人たちがいたから、わたしはその人たちに感しやしたいです。

がとう。」と伝えたい。母だけではない、父や妹にも「いつもありがとう。」と伝えたいと思う。

父は生まれた国が違う。だから名字もカタカナだ。でも家では日本語で話している。父が外に出て困らないように日本語を話して覚えさせてくれた。日本人じゃなかったから「父親が外国じゃなければ良かった。」と思うことはない。保育園の頃から国による差別意識はなかった。むしろ外国人で良かったとも思う。「違う」と言われて悲しかったけれど、それが私にとっての「あたりまえ」だから他をうらやましく思うことはない。だから「ハーフってたいへんだよね」「〇〇語しゃべってみてよ」とはあまり言わないでほしいなと思う。

みんなにはこのような体験はないだろうか。自分の家の「あたりまえ」が違うと言われたことはないだろうか。もし、このような体験をしたならばたがいに気づかい合っ

大好きな山笠

●博多小学校6年

大庭 宗大

ぼくが好きなことは博多の町にある山笠です。山笠が好きな理由は、博多の町でしか味わえない気持ちがあるからです。

山笠は博多の町を人形をかきながら走り回る行事です。その中でもぼくが一番感動したのが子供山笠です。子供山笠は大人山笠が始まる少し前に子供たちが博多の町をかける行事です。

ぼくが子供山笠で感動した事は、大人山笠でもあるくし田入りです。今年ぼくは六年生で、最後の子供山笠でした。みんなの目標はくし田入りで歴代最高タイムを取る事でした。その最後の山笠でぼく達は歴代最高タイムの二十三秒を取る事ができました。そのタイムをみんなで取れた時、ぼくや友達はずごく感動していました。ぼくはこの町でしか感じられない感動だ

いこうと思うのだが、どうだろうか。

大好きな絵

●高取中学校3年

加藤 優衣

私は小さい頃から絵を描くことが大好きです。物心ついたときから絵をよく描いていて、描いた絵をお母さんに見せると褒めてもらえるのがとても嬉しくて、何枚も絵を描いていました。小学校のときに応募した絵画コンクールで初めて賞をもらったとき、両親に褒めてもらえて本当に嬉しかったことを覚えています。

自分の想像の世界を紙の上に描き起こすと、新しい世界が広がるような、現実の世界から遠く離れるような感覚になります。絵を描いていると、悲しかったことも辛かったことも忘れて自分だけの世界に入り込むことができます。だから私は絵を描くことが大好きです。絵を描くことに没

思いました。そんな感動があるから山笠が好きです。

大人山笠では、子供は招き板を持つので、山をかかずに走り回ります。ぼくは来年から大人山笠をかく事ができるのでうれいす。今紹介したいように、この博多の町にいる人しか味わえられない気持ちや感動があるので、ぼくはその事をほこりに思い、これからも気合いを入れて山笠をやつていきたいです。

あとは大人山笠は、まだ自分が知らないだけで、感動する時が必ずあると思います。なので山笠をかくようになつたらそれを気付けるようにならばつていきたいです。ぼくは山笠をやつてみんなが元気になれるよう、気持ちをこめて、みんなの期待にこえて行きたいです。

あと次の子供山笠では自分の達のタイムをこえて、山笠の感動というものに気付けるようがんばつてほしいです。

この博多の町に山笠という歴史が古い物を伝統としてこ頭して時間を忘れ、絵を描き続けていることもありまし

絵について、今でも鮮明に覚えていることがあります。小学校低学年のとき、昼休みに友達と集まって絵を描いていたことです。そのときは自分にとって何気ない日常だったけれど、もうそのときには戻れないのだと思うと、とても貴重な時間だったのだなと思います。今ではとても大事な思い出です。その時に描いていた絵を見返すと、あのときはこんなことがあつたな、あの子とよく話しながら描いていたな、と何年も前にタイムスリップするような感覚になります。そんなところも私が絵を描くことが大好きな理由の一つです。

また、私は美術館などに飾られているような絵を見ることも好きです。絵を見て、作者はこの絵を描いたときどんな気持ちだったのかな、と想像すると、顔も知らないどころかの作者と繋がる事ができる気がします。絵を描くこと

れまでずっとつないできたので、ぼくも、未来でも山笠があるように、うけついでつないでいきたいです、そういうことができるからぼくは博多の山笠が大好きです。

いろんな家

●野間中学校2年

パtteツラトウ 夏蓮

私の家では、誰かがご飯を食べるときに「いただきます」と言うとか、かならず誰かが「どうぞ」と言う。また、誰かがご飯を食べ終わつて「ごちそうさまでした」と言うとか、かならず誰かが「はい」と言う。私にとってこれらの言動は「あたりまえ」だけれども、他の人から思うと「あたりまえ」ではない。ということを知った。

友達の家にも、その子の家の「あたりまえ」があつた。まだ幼かつたからなのか、「自分があつている。」と思つて

で言葉にできない感情を表すことができるので、私は絵をかくことは一種のコミュニケーションをとるための手段でもあると思つています。絵は、人と人とを繋げ、様々な思いや考えを知ることができる素晴らしいものです。

最近受験勉強で絵を描く機会が減つているけれど、これからも絵を描き続け、絵を通して自分の思いや感情を上手く伝えられるような人になりたいです。

毎日新聞社賞

きみがだいすきなこと

●宮崎小学校1年

大浦 穂果

わたしは、6さいしたのいもうとがとってもだいすきです。うまれてはじめてあつたとき、いもうとは、ほやほや

いた。でも「なんで夏蓮ちゃんの名前はみんなと違うの。」と言われてしまった。なぜかむしように悲しくなつた。そのとき初めて、自分が「あたりまえ」とよぶものが「おかしい」といわれた悲しみを知つた。もちろん「おかしい」と直接言われたわけではないけれども、悲しかった。

それから私は、「自分の名前にはみんなとは違う。」と思うようになった。友達の名前なんか気にせず遊んでくれていたけれど、私はずっとそのことが引つかつていた。モヤモヤして心が晴れない。そこで私は母に相談した。あまり上手くしゃべれない私に母は、だまって静かに聞いてくれたことが今でも、鮮明に覚えている。

こう考えると母はいつも雑談でもなんでも聞いてくれた。興味がなかったかもしれない、聞きたくなかったかもしれない。けど、だまって聞いてくれただけで私の心は明るくなった。だから、「あり

でちいさくてかわいかつたです。おおきくなつたら、もっとかわいくなるとおもつていたけど、いもうとのうごきはげしくなつてきました。「あー」とか「ぶー」とか、おしゃべりをしはじめました。0さい10かげつなのに、もうあるきはじめました。そのあるきかたがゴジラみたいです。はやくいもうとがおおきくなってほしいです。わたしは、いもうとにてつぼうをおしえたり、かくれんぼをしたりしたいです。

わたしは、いもうとのえがおをみるとしあわせになります。こころがほかほかします。いもうとのかわいいえがおがだいすきです。

私が大好きなお店

●博多小学校4年

遠藤 陽咲

私が住んでいる博多の町で大好きなお店は、遠藤商店です。遠藤商店は、おじいちゃ

んのお店でおじいちゃんとおばあちゃん、お父さん、お母さん、従業員の方が働いています。

遠藤商店は、百十年以上つづいていて、おじいちゃんが三代目でお店を守りつづけています。

お店には、おもちややだがしが売られています。夏祭りやようち園などの行事や会社のイベントのお買い物を目的でこられます。

おじいちゃんは、マジックのおもちやでマジックをしたりして、いつもお客さんをおどろかせたり、わらわせたりします。それにおじいちゃんの博多べんは、あたたかくて、お客さんはおじいちゃんと長く話すことがあります。

おじいちゃんだけでなく、遠藤商店で働く人は、いつもあたたかい言葉をかけてくれます。

そのような遠藤商店で私が大好きなところは、昔のままでお店をつづけているところ。入り口の引き戸やおもちややだがしを置く棚、昔の

遠藤商店の写真、二階に上がる階段、手書きの伝びょう。どれも昔にタイムスリップしているような空間です。よくお客さんで子どものころにお母さんと来ていた人が自分の子どもをつれてこられます。

そして必ず言うことが、「なつかしい。昔と変わってないですね。」と言われるそうです。そのことを聞いた私は、

「二人の子どもがおおきくなつて大人になるくらいの年月以上にお店をつづけていること。その年月の間、おじいちゃん、ひいおじいちゃんひいひいおじいちゃんが大変なときもあつただろうけど、

ずっとお店を守りつづけていることが本当にすごい。」

と思いました。

インターネットでは、「ドアをあけたらゆめの世界」や、

「おもちやもお店自体もホットする。」

などコメントされていました。こんなふうみんなから愛

られるのも両親が一生懸命働いてくれているからだ。

かっこ良くて、様々な思いが伝わってきて何度も胸が熱くなりました。そして、私もいつか絶対あのステージに立つて、多くの人を感動させたいと強く思いました。そのため私は、日々行っている発声練習や、読み練習等をしつかりと続けて、自分の気持ちを上手に言葉で伝えられるように、これからも努力をし続けようと思います。

お父さんへ

●野間中学校2年

スエナガ
末永 遥音

僕の家族は、父、母、僕、三人家族だ。僕にとつて家族というのは、いつでもどんな時でもそばにいてくれる温かい存在だと思ふ。

例えば、料理をする時や勉強をするときは父や母に教えてもらったことを思い出し、成功したり、良い結果になったりする。温かい布団で寝れるのも、美味しいご飯が食べ

されている、遠藤商店が私はとても大好きです。なのでずつとつづけられるように、私ができることをやって、力になりたいです。

私が大きくなつたら遠藤商店で働いて、子どもが生まれたり、その子どもも、遠藤商店で働いてほしいです。これからも遠藤商店が長くつづくようにおうえんしていきたいです。

念願の放送部

●原北中学校1年

シラミス
白水 紗希

私は文字を読むことが大好きで、おもちやで遊ぶことを忘れるくらいおもちやの説明書を集中して読んでしまうと、いう作文を書いて、小学一年生の時に楽文コンテストで「毎日新聞社賞」をいただきました。

数年後、受賞はしていませんが、文字を声に出して読むことが好きで、中学生になったら、絶対に放送部に入りたい

れた親戚のみんなができる事があつたら言つてね。と言つてくれた。何を言えばいいのだろうか。父がしてくれてた事は、父にしかできない。この時、父がいつもしてくれていた事を思い出し、感謝した。失つてから気づくというのはこういう事なのだろう。

引つ越しの準備をする時に父の思い出の品がたくさんあり、ほとんど捨てられない状況にあつた。母は仕事、僕は学校や部活があつたため、二人とも夜遅くまで作業をしていて、つい寝落ちしてしまい、夢を見た。父が出てきて、たくさんありがとうと言つた。

その事を母に話しかけに行くと、母が捨てきれずにいた父の洋服などを捨てていた。どうしてか尋ねると、嘘みたいな話だけど、母も父の夢を見たいらしい。「俺の事は良いから。」と言われたらしい。

他にも5年程触っていないどこにあるかわかんないものが出てきたり、業者の人に九時から十二時の間に来ると

いという作文を書いて、楽文コンテストに応募しました。

そして現在、私は中学生になり念願の放送部員になることができました。放送部に入つてまだ四か月ですが、発声練習や読み練習に加え、先生や先輩方に鼻濁音やアクセントなど、専門的なことも教えていただき、とても楽しいです。

五月の体育大会では、早速マイクを通して競技の説明や実況を少しですが、担当させてもらいました。やはり、先輩方の放送は私のものとは比べ物にならないくらい堂々と

していて、盛り上がった場所でも、とても聞き取りやすかったです。私は来年はもっと上手に実況などができるようになりたいと思いました。

六月には、夏の放送コンテストに向けて、自分でテーマを決めて放送原稿を作成しました。原稿作成のために私は、校長先生に取材をしに行きました。一対一で、しかも初めての取材だったので、とても緊張しました。

言われていて、まだ準備が終わつていなくて焦っていたら、一時に来た。しかも遅れてきたため、三割引きになった。きつと父が手伝ってくれたのだと思う。そこにいるような気がした。新しい家に来てからも困つた時、父に助けられているような気がする。

僕たちは市役所などで登録する時は二人家族と言われるけど、僕達の中では助け合つて生きている三人家族だ。父は亡くなったが、近くにいる。家族というのはいつでもどんな時でも近くにいてくれる温かい存在だと思ふ。

竜馬のような生き方

●志賀中学校3年

マチダ
町田 優莉

「世の人は、我を何とも、言わば言え、我が成す事は、我のみぞ知る」

これがわたしの座右の銘だ。坂本龍馬が残した句で、『自分を批判したいなら批判

その後、夏の放送コンテストに出場するメンバー決められました。私は、その初原稿を持って挑みましたが残念ながら選ばれませんでした。

放送部に入って、私は「文章を読む」のではなく、「文章を伝える」のだということを知りました。私は文字を声に出して読むことが小さい頃から好きなのですが、今まで教科書の音読でも、ただ丁寧にスラスラと呼んでいただけで、何かを伝えようと思っただけでいかなかったのです。

文字をただ読むのではなく、伝えること。それを実際に味わうことができたのは、七月に行われた中学校放送コンテストです。先輩方が出場するということもあり、私も会場で見学させていただきました。先輩方を含め、他校の方の放送は本当に素晴らしかったです。私が初めて作成した原稿、まだまだ未熟な発声、発音とは、比べ物にならない程、素敵で堂々としていて、とても

すれば良い。それでも私はやるべきことをやるぞ』という意味である。

約五年前、私が小学校中学年のとき、高知県出身の父の影響をうけて、初めて坂本龍馬に興味をもつた。それから龍馬に関する本を読み進めていくうちに、龍馬の性格や、その生き様にあこがれるようになった。

幼少期の龍馬は、泣虫で、剣術も弱く、学問もできなかった。塾の先生からは、「もう来ないでくれ」と見放され、いつも近所の子たちに「坂本のよばあたれ」とバカにされては泣いて帰っていた。しかし、龍馬が十二歳のとき、母・幸が死んだ。それから龍馬は変わった。母からのさまざまな言葉を胸に、母代わりの姉・乙女のもと、日々剣術の練習に励み、十八になるぐらいに

は、町で一番の腕となった。その後、河田小龍や勝海舟など、いろいろな人に会い、世界と日本について知つた龍馬は、世界の強さに圧倒され「今

は日本のなかで戦っている場合ではない」と思いはじめ、大政奉還を目指すようになる。そして、薩長同盟を結びせたり大政奉還を言したりと奔走した龍馬だったが、夢みた世界を見ることができずに暗殺されてしまった。

龍馬の、仲間想いで誰に對しても優しいところ、自分が決めた目標はやりとげるという意志が強いところが私は大好きだし、ここに私はあこがれた。上土と下土の身分の差が激しい土佐で、龍馬は下土だったが、仲間のために一人で上土にはむかつた龍馬。

仲間が処罰され、殺されたときは涙を流し、悲しむ龍馬。自分をなくし、全員が平等な日本を目指し、海軍に目を向け、奔走した龍馬。こんな龍馬の姿は、私に元気をくれる。龍馬が生まれていなかったら、今の日本はないと思う。今も身分の差があったかもしれないし、今は外国の領土になつていたかもしれない。そう思うとますます龍馬にあこ

がれる。

これから生きていくなかで、私は龍馬のような生き方がしたいと思う。日本を変えたいという訳ではなくて、誰に對しても優しく、一度決めたら絶対にあきらめない、そんな人になりたい。だから、今は友達を大切に、志望校合格に向けて努力しようと思う。

RKB毎日放送賞

生まれてきてくれてありがとう

●東住吉小学校2年

濱田 真央

わたしには、大きなおとうとがいます。夏休みに生まれたばかりで、まだ小さな赤ちゃんです。

赤ちゃんはまだおかあさんのおなかの中にいるころ、わたしは「かわいい赤ちゃんが生まれてくるといいな。早く会いたい

な。」と思っていました。おか

あさんのおなかがどんどん大きくなって、さわると、おなかの中の赤ちゃんがポコポコうごいているのがわかり、「足でけているんだな。赤ちゃんも、おなかの中でがんばっているんだな」と思いました。

夏休みになって、おかあさんは、赤ちゃんを生むためにびょういんに、にゅういんしました。おかあさんのおながいたくなくなり、もうすぐ生まれるかもしれないとれんらくがありました。びょういんに行きました。

おかあさんは、ベットのうえで、きつそうに「フー」いいながら、がんばっていました。わたしたちかぞくは、何度も「がんばれー」とおうえんしました。すると、よるの9じ1分ついに赤ちゃんが生まれてきました。生まれきたばかりの赤ちゃんは、手足をブルブルふるわせながら、「オギャー」となきはじめました。びょういんの人たちが「おめでとうございませす。かわいいぼっちゃんですよ」と言いました。

おかあさんがいたそうにして、いるすがたを見るのは少しこわかったけど、元気でかわいい赤ちゃんが生まれてきてくれて、とてもうれしかったです。かわいい赤ちゃん、生まれてきてくれてありがとう。大ききだよ。これから、かぞくでだいじにそだてて、たのしくすごしたいです。

ぼくのいだいひいおばあちゃん

●板付小学校4年

若林 陽祐

夏休み、ひいおばあちゃんから野菜がとどいた。夏野菜がダンボールパンパンに入っていた。暑い中、毎日がんばって野菜を育ててくれたんだな。ひいおばあちゃんの作る野菜はすべてぜっぴん。おいしい野菜をありがとう。

ひいおばあちゃんのお手玉はプロ級だ。どんなわざでもさらりとやってしまう。オリンピックでお手玉のしゅもくがあつたら、ぶつちぎりの金

メダルだ。ひいおばあちゃん

の弟子になって、いつかひいおばあちゃんをこえてみたい。お正月、ひいおばあちゃんに会いに行くと、おしることに会いたくあんな出してくれ。おしることはとってもあまくて、おもちはつきたてもっちりだ。たくあんは中までしつかり味がつかつていて、ポリポリとした食感がたまらない。ただ1つなやみがある。ひいおばあちゃんの手作りのおしるこを食べすぎて、ほっぺたがおもちのようにもちもちぶつくり、太つてしまうこと

だ。太つてしまうけど、毎年お正月になると食べたくなるひいおばあちゃんのおしるこが大好きだ。ひいおばあちゃんのおしるこは、ぼくの元気のみなもとだ。

ひいおばあちゃんは旅行が大好きだ。国内はほとんど都道府県に行つていて、海外は何カ国行ったか分からないくらいだ。ひいおばあちゃんから旅行の話を知ると、ぼくもひいおばあちゃんといつ

しよに旅行に行った気分になる。今度、ひいおばあちゃんといっしょに旅行に行きたいな。ゆつくり温泉に入りたいな。そんなぼくのひいおばあちゃん、もうすぐ九十五才。これからもずーっと元気で長生きしてね。ひいおばあちゃん大好き。

ぼくが好きな事

●草ヶ江小学校5年

寺師 優輝

ぼくが好きな事は陶芸です。四年生のころに、陶芸体験教室でお茶わんを作ったときに、とても楽しいと思つたのがきっかけです。それから、陶器市へ行ったり、陶器フェスで陶器を買いに行ったり、陶芸教室へ行ったりするようになりまし

陶芸で作品を作っている時は集中してできる事、自分の思うように作品を作る事ができるのが好きな理由です。

この前は、小石原焼を体験

しに陶芸教室に参加しました。その時はコップ作りを初めてしたので、お皿やお茶わんとは違う作り方だったのでとても面白かったです。そして何よりもうれしかったのは陶芸教室の先生にセンスが良

いと言われた事です。センスが良いと言われてうれしかったです。

今のぼくの夢は陶芸家になることです。そのために、陶器を見たり作ったりして陶器について、もっとくわしくなつていきたいです。

自分が好きなこと

●野間中学校2年

大東 亜聡

自分は、写真を撮ることが好きだ。そう思うようになつたのはある写真を過去に撮つたからである。約一年前の出来事だ。糸島市の海へ行くとき、渋滞に車が運悪くはまつてしまい、海に着いたのは午後6時を過ぎた頃だった。あ

と十分ほどで沈みそうだと思うほど、夕日は水平線に隠れかけていて、あたりの海、砂や空はオレンジ色へと染まっていた。時間も遅く、特にすることもなかったため、父のスマホで何気なく、夕日が沈みかけている海の方の写真を撮つてみた。「あ」自分がボタンを押したときちょうど、カメラの前を人が通つた。「失敗した」そう思い、写真を見返す。すると、さつき通つた人は逆光により、真っ黒な歩

くシルエットとなって、オレンジ色の空を背景に写つていたので。思うものは撮れていないが、この写真にはなぜか惹かれ、なんとも言えない味わい深いものがあつた。そのとき、とつさに夕日を見た。もうほとんど沈みかけている。そして周りはさらにオレンジ色の世界へと変わつていった。今のような写真をもう一度撮りたい、と思い、父に海を見るようにして立つてもらい、後ろ姿を夕日越しに撮つてみた。さつきと同じようにこ

とができる。この瞬間が自分はまだ好きだ。最近、自分の好きなカメラを使うことで、より色々な写真を撮ることができるようになった。写真を撮ることで、懐かしさとともに、その時の気持ちや様子が鮮明に思い浮かんでくる。

自分は写真を通して、いつもの日常も、普段と違う非日常もどちらも特別で、大切にしていきたいという考え方を持つようになった。写真を撮ることで、得られることは多く、なにより楽しく、一瞬しかない瞬間を記録することができる。「写真を撮る」ということが自分は好きだ。

苦手から大好きに変わった英語

●香椎第三中学校3年

田代 衣月
タシロ イツキ

私は、小学四年生から始まった英語が大の苦手だった。アルファベットが並んだ単語の読み方も、それをうまく発音することもできなかつたからだ。

小学六年生の時、私達家族は、父の仕事でウクライナへ移り住んだ。ウクライナには日本人学校がなかったため、私と姉達は、インターナショナルナルスクールへ通うことになった。英語が苦手な私は、大きな不安を胸に登校をした。その不安は見事に的中し、英語しか耳に入っていない、校内の張り紙も全て英語である環境に、絶望感さえ感じた。今思えば、当たり前のことである。

帰宅すると、毎日、パソコンに宿題がメールで届いていた。英語で書かれている内容を全く理解することができず、パソコンの前で泣く毎日

を過ごした。その姿を見かねた姉達が毎晩遅くまで私の宿題に付き合ってくれた。

数週間が経った頃、先生やクラスメイトが話していることや、簡単な授業は理解できるようにになった。しかし、自分が伝えたいことを言葉にすることはできず、もどかしい気持ちでいた。どのような状況で、どのような言葉を使えばいいのか観察して、毎日真似をして使ってみることを繰り返した。そのうちに、私が発した言葉に返事が返ってくるようになった。そこから、私はだんだん楽しくなってきた、新しい表現を色々試して、使ってみるという小さな挑戦を積み重ねた。小さな挑戦という積み木が積み上がるのを感じるのと同時に、英語で話すことが好きになっていくのを感じた。

学校では、全員が仮装して登校する日や、ピザを食べながら映画を鑑賞する日など、ユニークな行事がたくさんあった。行事の中で多国籍の、

あらゆる年代の人と交流する経験をすることができた。母国語は違っても、笑いのツボや、興味を持つていることに

大きな差はないということが分かり、もつと多くの人と英語で会話をしたいという思いが強くなった。その頃から、私は自分から話しかけ、自分なりの英語で、多くの人と話をするようになった。英語でコミュニケーションをとることが大好きになったのだ。

現在は日本の学校へ戻り、英語で会話をする機会は減ってしまったが、英語の勉強を続けることはもちろん、更に日本の文化や、福岡の文化を学んで、その素晴らしさを海外の人に伝えられるようにになりたいと考えている。私が苦手だった英語を大好きになった、かつて暮らしていたウクライナに平和が訪れたとき、もう一度、ウクライナを訪問して、ウクライナの人にも、日本や福岡の魅力を伝えることを目標に、一生懸命に勉強をしていきたいと考えている。

な。」

と思いました。

わたしは、水泳と体育教室の体けんに行きました。

「できるかなあ、きんちょうするなあ。」

と、ふあんがいったけど、コーチから、

「あと少しでできるよ！」

と言われて、うれしくて、すず木せん手を目指してやってみようと思いました。家ぞくから、

「もつと早くはじめておけばよかったね。ごめんね。」と言われました。でもちがいます。前は、したくなかったし、きょう味も、ありませんでした。わたしは、今したいんです。すず木せん手みたい

に、あきらめずにど力して行きたいです。そして、体育のじゅぎょうで、水泳はもぐつて泳げるようになること、とびばこ八だんとべるようになること、マットで後ろまわりができるようになること、鉄ぼうでさか上がりができるようになることを目指ようにな

大すきなぞく

●東住吉小学校2年

伊藤 健
イトウ ケン

ぼくのかぞくは、五人います。いもうと、おとうと、おあさん、おとうさん、ぼくです。

おとうさんは、かぞくのためあさ早くからよるおそくまで、おしごとをしています。つかれているはずなのに、ぼくをこちよこちよしてくれま

んでくれたことです。ちょうどおとうとがうまれるときに立ち会うことができました。そのときのおかあさんが、いたくてもがんばっていたから、おかあさんが大すきです。いもうとは、おもしろくていつもわらわせてくれます。今は、五さいだけど、ぼくよりへんがおがじょうずです。それに、へんなうごきもとくいで、へんがおしながらダンスをすると、かぞくみんな大ぼくしようです。けんかもするけど、すくなかよしになります。へんないもうとだけど、かわいくて大すきです。

おとうとは、かわいすぎます。ぼくとおとうとのおたんじょう日は、二日ちがいで、二月生まれなので、もうすぐ六か月になります。いっしょにあそぶとわらつてくれて、足と手が、小さくてかわいいです。名前をよぶと、こつち

を見てくれるところ、すずの音がすきなところ、体ぜんたいがかわいいところ、ほつぺたがぶにぷにしているとこ

んばります。

来年の今ごろは、水泳と体育がわたしの大すきなことになっていくように、あきらめずにやりつづけます。わたしは、すず木せん手をお手本にして、今からスタートします。

大切な家族

●花畑中学校1年

吉田 寧々
ヨシダ ネネ

なくて、めいわくをかけているのは、分かっているけど、ついついやさしさに甘えちゃいます。だから、今甘えている分、大人になったら、恩返しをしたいなと思っています。自分の中でも、今の自分はやばいと自覚しているので、すが、それをなかなか行動に表せていません。

前、こんな事がありました。私が、体調がわるかった日です。私のリクエストした「ハンバーグ」をお母さんが作ってくれていました。でもその時私は、あまり食欲がなくて、全部は食べれませんでした。その後、私はベットでねていたのですが、トイレに行きたくなつて、リビングに行くとき、私の残した分のハンバーグをお母さんが一生懸命、食べていました。それを見て私は、「せっかく作ってくれたのにごめんね」とお母さんにおもわずいいました。すると、「体調が悪いなら仕方ないでしょ？」と言ってくれました。自分はものすごくなげない

ろ、おかあさんがだっこしたら、すくなきやむところ、まだまだかわいいところは、たくさんあります。かわいいおとうとが大すきです。それからぼくは、ぼくのことも大すきです。りゆうはなけれど、大すきです。そのことをおかあさんに言ったら、「それは、とつてもいいことだね。」

と言って、なぜかなきそうなおおになっていました。

今からスタート

●草ヶ江小学校3年

井手 愛梨
イテ アイリ

わたしは、この夏決めました。水泳と体育教室に通うことを。わたしは、プールがにが手で、とびばこやマットも自しんがなくなっていくと思っていました。今までは、

「まあいいか。」と、思っていたけど、水泳の

「すず木せん手は、小さい時からいつもど力していたんだよ。ぜひみてね。」

と教えてもらっていたので、みたいと思っていました。じつさいに、オリンピックで

のおよぎを見て、自分が決めていた目ひょうをたつせいで、さらにがんばりたいと自分にはく手をおくっていたすず木せん手は、

「かっこいいな、あこがれる

娘だけど、お母さんの役に立てることはしたいなと思いつく。おこられた時、ものすごくむかついで、家出しちゃおうかな、と思う時があります。でも、本当はものすごくやさしいお母さんが私は大好きだから、家出なんてできません。でも、私は恥ずかしがり屋だから、「大好き」とか「ごめんなさい」とかまだ、まともな言ったことがありません。でも私は本当の本当に、大切に大好きな家族に生まれてきて本当によかったなと、思いますが。お母さんいつもありがとうございます。これからも楽しく家族とすごしたいです。

私が大好きな事

●老司中学校2年

新内 シンナイ 美羽 ミフ

私が大好きな事は、7月1日から、7月15日までである年に1度の博多祇園山笠です。私は小さいころから山笠をしていて小さい時にやめちゃっ

呆気に取られていた。自分へ期待してくれた人がいた、と自覚したのは周囲より遅かったが、はつきりと感じられた。そんな時間を過ごし、生徒会長としての日々が始まった。生徒会長という役職は、失敗すると目立つ重要な仕事が多く、いつでも堂々とさわやかな姿でいるという理想があった。その姿になるべく、自分に磨きをかけることは、とてもやりがいがあった。失敗や困難を一つずつ乗り越えていく度に、この役職が板につくようになった。

日に日に、九月末の退任式へと近づいていく。生徒会で過ごした一年間で、何年分の経験を積み重ね、どれほど成長することができただろうか。生徒会長としては、歴代の先輩方と比べると未熟だったかもしれないが、私に憧れを持ってくれた後輩達の存在が、私に誇りを持たせる。これまでの選択や、姿勢や、行動が正しかったと、信念を貫かせてくれる。そんな後輩

たけど、父さんがしているのをずっと見てきて、がんばって走っている父さん達がとてもかっこよくて、私も出た

いって思うけど、もう出れなくて、ずっと見ることにしかできないけども、重たい物をついで大きな声を出して走る父さん達はキラキラとかがやいています。

出るのも楽しいけれど、見るのもとってもたのしいし、雨でぬれながらも父さん達を見るために、がんばって追いかけるし、タイムをきそい合いながら、走るの、すごく大変だけど、勝つために、足を動かして走ってる父さん達をみると、とっても元気が出るし、山笠を見にきて良かったなって思えるのが本当に良い事だと思っし、終わった後、父さんや、出ていた人達に、お疲れ様でした!!って言えるのもうれし、自分はこの山笠が好きで、博多祇園山笠の魅力はものすごくあります。

1つ目10数メートルの絢爛

達が大好きだ。あの子の自分に自信をくれた先生方と友達も大好きだ。生徒会長の活躍を見守り、たくさん褒めてくれた両親や親戚、地域の方々が大好きだ。そして、生徒会活動は、自分の学校を活性化させ、自分を見つめ直すことができ、大好きだ。「大好き」という言葉には、感謝と大きな愛が、詰まっている。



大すきなこと見つけたよ

●草ヶ江小学校2年

前園 マエゾノ 薫 カオル

なつ休み、ぼくはおかあさんと、おとうとといっしょにせいか女子こうとう学校のすいそうがくのえんそうかいを聞きに行きました。すいそうがくのえんそうを生で聞くのは、はじめてでした。小さな

豪華な飾り山笠が市内10数箇所に立ち並び多くの観客を魅了すること。

2つ目が見る人も、もり上げれる所です。1年に1度しかないけどたくさんの人々が山笠を見て、「おおう」とか「すごい!!」などの声も沢山あつて、みんなが山笠に魅了されて、まずすごいのが2トンのある飾り山を30人〜40人近くの人達でかついで走ったり、一番の見所は、7月15日にある追い山笠です。この15日には、みんながいつもより目目の色を変えて、5・5kmを20分前後でゴールします。みんなゴールするためにがんばって、かついで、走っているのがとても魅力です。みんな力を合わせて、さい後の追い山ですべての力を出して走っているのはとてもすごいと思います。私は、みんなが協力して5・5kmもあるゴールまでひつしで走っているみんなが本当にかっこいいと思います。やっぱり、みんなの協力や、努力のおかげで77

がつきや、もちあげるのがおもそうな大きながつきもありました。

そのなかで好きながつきがありました。それは、サックスと言うがつきです。どうして好きかと言うとおかあさんがわかいときサックスをやっていたからです。だから好きになりました。金色でかっこいいし、サックスの音が聞こえるといつのまにか体がかつてにおどりだしてしまいました。じぶんでもおどろきました。「なんでか体がうごいちゃう。」「ぼくが言うとおかあさんが「かおるくんは音がく大すきだね。」

と、言いました。それを聞いてたのしい気持ちになりました。ぼくは学校のおともだちといっしょにドッジボールをして体うごかすのも大すきだけども音がく聞いたたりすること大すきです。

いろいろなことをして、まだまだたくさん大すきなことを見つけたいです。

0年も山笠が続いているのがあらためて分かりました。もつと博多祇園山笠を大切にしていきたいです。

糧

●志賀中学校3年

倉成 クラナリ 紗良 サラ

今から約一年前の私は、希望と少しの不安を抱き、プレッシャーも感じながら、全校生徒の前で演説をしていました。「生徒会長立候補」と書いたたすきをかけて。

生徒会長に立候補しようと思ったのは、中学二年になってからである。もともと生徒会には興味があったが、最初は書記として立候補する自分を描いていたし、そのつもりで動こうとしていた。担任の先生からは「生徒会に入るなら、君は生徒会長だと思っよ。」と言われたが、私には力不足だと思った。しかし、生徒会担当の先生や友達からも同じように言われたことか

は虫類大すき

●東光小学校3年

光野 ミツノ 朝陽 アサヒ

ぼくの大好きなことはペットのカナヘビのおせわをすることです。去年の夏、八女の森でうまれたばかりのカナヘビをお父さんが見つけてつかまえてくれました。八女に行く前に、「は虫るいの中でカナヘビならかってもいいよ。」とお母さんが言ってくれたので、家でし育てることにしました。そのためひつようなケージやしがいせんライト、流水をよういしました。また、野生のカナヘビのため、人工のエサは食べないので、生きたコオロギにカルシウムをつけてあげなければいけません。さいしょは手をちかづけるとこわがっていただけ、毎日えさをやったりきりふきしたり声をかけてやったりしていたら、だんだんぼくにもなついてきているように感じました。半年に一回ケージの

ら、次第に自信がついていき、目標は「生徒会長になること」へと変わった。

生徒会立候補用紙には、わずかに手が震えつつも「生徒会長」に丸をつけ、提出した。たった一枚の紙でも、重みがあった。そして選挙活動がはじまると、自分をアピールする事は容易ではないと実感したり、休み時間も周りが読書をしていたり、遊んだりする中で、私は演説会当日の原稿を読み直していた。立候補したため当然のことだが、周囲を羨むこともあった。そんな日々が繰り返され、いよいよ演説会本番。様々な思いが頭を駆け抜けたが、無駄な力が入ることとはなく、練習以上に良い演説ができた。次の週、選挙結果が発表される時のほうが緊張していた。「生徒会長は、」とマイクから聞こえる声、頭の中で反復する。少しの間があつたあと、その声は私の名前を呼んだ。クラスの皆が歓声をあげる。名前を呼ばれた張本人である私は、

そうじをしていて今年のなつやすみも大そうじをしました。お父さんが木をあらつてるときに「カナヘビがでらんように見とつて。」とお父さんが言いました。そこで、面どう見ている間にぼくがカナヘビのあごと手足をさわつてもにげませんでした。前は、さわろうとしてもにげるからさんねんと思つていただけ、毎日面どう見てたら人間がてきではないとわかつてくれたと思うのでうれしかったです。このカナヘビをかってぼくが学んだことはねるときはしつぽをまいてねていることです。そしてぼくのかつているカナヘビは夜の九時ごろになると自分できめたねる場所に行きます。また、オスと交尾しなくてもたまごをうんでいたことにおどろきました。カナヘビをかつたことで、おん度かんりやえさやりの大変さがわかったので、前はいろんな生き物をかいたい、かいたいと言つていただけ、そのむずかしさが分かりました。

そして毎日面どう見ていたら元気なときもあれば元気ではないときもあるから声かけも大切だと思いました。毎日あいじようをもってそだてるとカナヘビもぼくたちの気もちを分かってくれてるんだなと思いました。外出してもは虫類を見つけたくありません。

今年の八月に石がき島に行ったとき、二日目の夜に生まれたばかりのヤモリを見つけた。そのヤモリをへやにもつて帰ってしばらくたつてかえしてやろうとしました。でも、にがそうとしてもぼくからはなれませんでした。たぶん生まれたばかりのヤモリだからぼくのことを親だと思っていたと思います。

とてもかわいかったです。そしてやつとぼくの手からはなれました。次の日の朝、朝ごはんを食べに行こうとげんかんを出たとき、なんと前の日にがしたのと同じようなヤモリがいたので。ぼくは思いました。前の日のヤモリだと。もし前の日のヤモリだと

勉強をしている。しかし、僕はこれがつらくはない。理由は三つある。

一つ目は、難しい問題が解けたときがともうれしいからだ。僕はこのような経験がある。僕は数学の立体の体積の問題を解いていた。公式や基本の問題は理解していたが、この問題はとても難しかった。

「これまでの知識でこの問題は解けるのか。」と思った。いつの間にか三十分たつていった。そろそろあきらめようと思ったその時、問題の図を見て気づいた。

「そうか。ここにここで分けて考えるんだ。」急に鉛筆が走り出し、答えを出した。そして、模範解答を見た瞬間、心の中で叫んだ。このとき難しい問題が解けたときの快感をはじめて味わった。しかも、この経験はこの先でも何回もしている。この快感を味わうために勉強を続けている。

二つ目は、大人になるため

たらきつとぼくをまっつてくれたのだと思いました。ざんねんながらもつてかえることはできないけど、うれしい気もちで福岡に帰ることができました。

大切な友達への手紙

●板付小学校6年

ワカバヤシ 若林 陽奏

「友達から手紙が届いた！」ゆう便受けをのぞいて、友達からの手紙をみつけたしゅんかんが、とてもわくわくします。私には文通友達がいます。四年生の時まで通っていた学校の友達です。私はその友達と文通することが大すきです。

私は人とお話をすることが苦手です。自分の思っていることを話して伝えたいと思っているけれど、とてもきんちようしてしまうので、なかなか声に出して話すことができません。友達に話しかけられた時は、小さくうなずいて返事をするとしかできず、

に大切なことを学べるからだ。例えば、社会の地理では、世界の気候や人々の暮らし方が学べ、よりよい社会をつくることについて考えることができる。国語の漢字は大人になつてもあたりまえのように使うものだ。文章読解では、文章を読んで自分の考えを書いて表現することが学べる。

このようなことは、大人になつて仕事をしたりするときにもとても大切になつてくる。このように大人になつても大切なことを学べるので勉強を続けている。

三つ目は、勉強を通じて、いろいろな人と関わりをもてるからだ。例えば、わからない問題がある時は、人に解き方をきいたりして答えを求めら、自分分問題を解けず、苦手を残して次に進むことになら。僕は、勉強は一人ではなく、いろいろな人と協力してするものだと思う。いろいろな人と関わることも大人になつてもとても重要なので勉強

自分の気持ちをうまく伝えられないことにモヤモヤしたり、イライラしてしまうことがあります。

福岡に引っこし、不安でいっぱいの中新しい学校に通い始めたころ、友達から手紙が届きました。「新しい学校でもがんばつてね。」

と、応えんの手紙でした。友達とはなればなれになつてしまったさびしさと、新しい学校になれない不安な気持ちでいっぱいだった時にもらった手紙。その手紙を読んで、とてもうれしくて、ほつとしました。私は友達にすぐ、「ありがとう。がんばるね！」と、感謝の返事をしました。

友達と直接お話しする時は、自分の気持ちをうまく伝えることができなかつたけれど、手紙では、話したいことをたくさん書いて伝えることができました。手紙を通して、気持ちを伝えることつて、こんなに楽しいんだなと思えました。自分の思っていること

勉強を続けている。僕は、快感を味わえたり、大人になるために大切なことを学べたり、いろいろな人と関わりをもてる勉強が大好きだ。僕は、これからも勉強を続けるつもりだ。そして、もうすぐ入試という大きな壁がやってくる。まずは、この大きな壁を乗り越え、これから

の人生で必ず出会う壁を勉強で得た力で乗り越えていきたい。

かわいいあの子

●柏原中学校2年

アキヤマ 秋山 ゆりあ

私の家族は、父、母、妹、それと一匹の猫がお空の上にいる。この子はアメリカンショートヘアのおじいちゃん猫。黄色い目にかわいい声、そしてぼつちやりのお腹。いってきまず、ただいまと言つて見送りや出迎えをしてくれることはなかつたけど、近づいたら喉を鳴らして擦り寄つてきた。たまにさびしく

を伝えられて、とてもすつきりした気持ちになりました。私は手紙を書く時、友達は私が送った手紙をどんな気持ちで受け取ってくれるのかなと想像しながら書きます。目をキラキラさせて喜んでくれるかな？ニコニコ笑いながら読んでくれるかな？そして、手紙をポストに入れる時は、ゆう便屋さん、友達に早く手紙を届けてください！とお願ひしながら、ポストに入れます。

勉強

●花畑中学校2年

マツカワ 松川 紘都

今日は、数学の復習をした。その次の日は、漢字の勉強。またその次の日は、長文読解。このように僕は毎日のように

も信じられなかった。ついこの前まで遊んでいたのに。その後の一週間は、写真を撮つたり、いつも以上に感謝を伝えたり、たくさん話しかけたりした。

そして一週間後……なんと元気になつていた。あまりにも普通だったから、本当に病気なのか疑つたけど、やつぱり病気ではあるみたいだった。それからは、いつも通り過ごした。あの子も元気に過ごしていた。

数ヶ月後、突然あの子の具合が悪くなった。あの子は歩くこともできなくなつて、ごはんも食べられなくなつた。心配で、ずっとついていたかつたけど、学校に行かないといけなかつたから、いつてきますを言いに行つた。その時に妹は「今までありがとう。大好きだよ。」

と言つた。でも私は死んでほしくなくて、今までありがとうと言えなかつた。その日帰つてきたら、母か

ら「報告」を受けた。私は泣いた。妹も泣いた。みんな泣いていた。たくさん泣いた。次の日、起きてもあの子はいない。さびしくなったけど、悲しくなかった。昨日たくさん泣いたときに、あの子が悲しみを抱いていってくれたのかな、と思った。

ときどき部屋の隅に落ちていた猫じゃらしやねずみを見つけると、なんだかうれしくなる。たとえいなくなっても、あの子は私の家族だ。

来風人



幹事紹介
嘉村悠平さん (25歳)
 追い山笠コース探訪担当
 ■職業: 情報関連産業(営業職)
 ■土居流 大乘寺前町

■山笠への思い

私は土居流大乘寺前町から山笠に出させて頂いております。現在、叔父が大乘寺前町で取締をしており、当時若手だった叔父に連れられ、山笠と出会いました。私にとって幼い頃から当たり前の様にあつた山笠ですが、今振り返ると、他には代え難い大切な場所になっています。人との繋がりが希薄になってきたと言

われる昨今に、親や学校以外で、本気で本心で、自分と向き合ってくれる人たちがいる貴重な場所です。心の底から喜んでもらえたり、自分がピンチの時には真っ先に助けていただいたり、時には本気で叱つていたり、山笠にはそんな言葉では簡単に表せない特別な関係があると思います。また、さまざまな経験を通して自分に自信をつけてもらったのも山笠だと思っ

ています。今の自分があるのは、間違いなく山笠のおかげです。これから先も、山笠という私にとっての当たり前を大切にしながら、謙虚な姿勢を忘れずに、少しでも山笠へ貢献していくことが出来ればと考えています。

■博多の風について (探訪担当)

幼い頃から山笠へご縁を頂いていた私ですが、この機会にNPO博多の風の歴史を調べたところ、実は博多の風は平成10年生まれて私と同じ年であることが分かりました。

まだ博多の風が発足して間もない頃、母に連れられベビーカーで博多の風フォーラムに参加していた私が、今は「追い山笠コース探訪」の案内人をしています。追い山笠コース探訪では、博多の町や山笠の歴史を少しでも沢山の方に知っていただき、博多祇園山笠を好きになっていただければと

思っております。毎年ご参加いただいている方からは「昨年と言いついことが少し違うね」というお声が時に聞こえて参りますが、それも「山笠」と思っ

■最後に

今の私の夢は、自分の子供と大好きな山笠へ出ることです。伝統を継承していく難しさを痛感させられておりますが、「次の世代に」を自身のテーマとして胸に抱き、これから先も改めて博多の町や山笠に貢献させていただきます。少しでも素敵なお内、かっこいい土居流へ！夢の実現に向けて、まずは奥さんを見つけるところから始めていこうと思ひます(笑)。

大庭宗一の人気エッセイ

シリーズ第11弾

「明日への一言。11」

明日をもっと面白く生きるために
 熱いメッセージがいっぱい詰まった
 エッセイ集です



人気シリーズ好評発売中！ 定価600円(税込み)
 ホームページからも購入できます



賛助会員募集中

我々「NPO博多の風」の主旨をご理解いただき、活動に賛同いただける方を広く募集しています。お近くの博多の風の幹事が下記までご連絡ください。

事業活動内容

- 博多の町の伝統・文化を次世代に引き継ぐための、一般市民及び青少年に対する啓発事業
- 博多祇園山笠の各流れ地域(旧博多部)を対象とした地域環境向上のための事業
- 博多祇園山笠に関する出版及び資料館整備などの活性化事業
- 博多のまちづくり及びスポーツ振興に関する他団体との交流、連携及び協力事業



お問合せ先
 「NPO博多の風」広報企画(担当:山口)
 E-mail info@hakatanokaze.jp
 FAX 092-263-7188

- 一般会員 : 一口 1,000円(年間)
 - 特別・法人会員 : 一口 10,000円(年間)
- (一口以上、何口でもお申込みいただけます。)

編集後記

新型コロナウイルス蔓延が遠い昔のように感じられるほど、私達の環境は以前に近づいているように感じられます。令和6年は第42回博多の風フォーラム、第21回追い山笠コース探訪を以前と同じように開催できました。そして我々の多くの仲間が参加する博多祇園山笠も制限なく行われました。市民の皆様をはじめとして多くの方々のご理解、ご協力があったことだと感じております。ありがとうございます。

第23回を迎えた楽文コンテストの受賞作品には、大切な人を題材にしたものがあり、改めて自分の大切な人について考えました。戸谷氏の講演の中にあつたように、近年交通事故が増加傾向にあります。私も車で通勤する立場として、これまでカーナビやスマートフォン画面に気を取られる場面が少なからずあつたように思います。交通事故は誰かの大切な人を傷つけることになり得ます。毎朝ハンドル越しに見る「誰かにとっての大切な人」を交通事故から守るために、改めて運転に集中することを意識したいと思います。

最後になりましたが、今後とも博多の風の活動にご理解ご協力のほど、よろしくお願ひします。
 (今長谷 創太)